



# なきごえ



1991

5



関 優

いままで、ずいぶん多くの動物とつき合ってきたが、寝食を共にしたとなると、やはり犬が一番多い。子供の頃から数えると、もう14、5頭にもなるだろうか。そのなかには、

思い出深いものも何頭かいる。

オフクロに聞くと、わが家で犬を飼いはじめた理由が、町はずれから山道を尾根を越え、谷を渡りして、小1時間も歩いた山の軒家だったため、用心のためと遊び相手のない私を不憫に思ったのだったという。

そして、その当時ジョンというメス犬がいた。この名前を今でも覚えているのは、それ以後やってきたメス犬は、二代目ジョンとか三代目ジョンとか呼んでいたため、この初代のジョンは茶色のおとなしい犬だった。しかし、それ以上、思い出そうとしても、春がすみの向こうの景色を見るようでさだかではない。まだ私が小学生になる前、4、5才の頃のことである。

そして、それ以後何頭も飼ったが、いまでも、はっきりと記憶に残っているのが、中学の頃に飼っていたジミーとベルというオスの兄弟である。道端に捨てられていたのを拾ってきたのだが、まだ目も開いておらず、無事に育つかどうか危ぶんだものだ。さっそく部屋の片すみにダンボールの箱を置き毛布を入れ、2時間おきにミルクをやり、しばらくは、この2つの小さな生命に振りまわされていた。夜中にギャーギャーと泣くと、コンチクショウと思うが、学校から帰って一番先に顔を見るのは、やはりこの小犬であった。そして、この2頭は、私のよき遊び相手になった。

どんなに遠くにいても、呼べば一目散に走ってくるし、山の中を歩けば、どこまでもついてきた。ジミーは、白と黒と茶色の長い毛、ベルは全身まっ茶色の短い毛で覆われており、顔はどことなくブルドックに似ていた。そして、このベルのケンカの強か

ったこと。当時、家の近くに14、5頭の野犬の群がいたが、この群といつも争いを起していた。遠くから見ていると、ベルは首の下をねらって咬みつくと、力まかせに振りまわす。一度咬みついたら他の犬から攻撃されようが離さなかった。反対にジミーは素早く咬みつくと、パッと離れる。対手が油断していると、すかさず咬みつくとという素早さがあり、どうして兄弟なのに、こんなに違うのだろうかと思つたものだ。

その後もわが家に犬の絶えることはなかったが、5年前にグルという犬がなくなってからは、1年以上空白の時期が続いた。

そして、3年前の秋のある日、外出から帰った私は玄間で、にぎりコブシぐらいの黒いかたまりを踏んづけそうになった。これが、いまの3代目ジミーとの出会いである。その夜、自分の部屋に入れた私はオフクロに「この犬、大きなで」と言った。前足がすごく大きく、骨がしっかりしていたからである。

この写真を友人のAさんに見せた所、「関さんこれは20キロ越えますね」という話であった。

また、別のYさんに見せた所、「けったいな犬やわ」と笑われた。そう言えば、顔がシェパードに似て、体が白と黒のまだらで尾が巻いている。どことなく牛のホルスタインに似ているし、前から見ると尾の巻いたシェパードである。二人の話を総合すると、シェパードと日本犬の何かまざったらしい。それも、シェパードと日本犬の最初の子供ではないかという話であった。ちなみにYさんもAさんも獣医である。

その後、Aさんの言う通り体重は20キロを越え23キロになった。もう散歩につれて歩けるのは私だけである。だれも来ない山道で離してやると、ドドドと音をたてて走ってゆく。白と黒の体が波を打って、たちまち遠ざかってゆく。……と思う間もなく、息を切らせながら駆けもどってくる。耳を倒して、まっすぐ前を見ながら、風のように近づくと、私の横をすりぬける。

この、からだじゅうで喜びを現わしている姿が私は好きだ。そして、こういう時間を1日1回は持ちたいと思っているのだが、現実はなかなかきびしく、それが、今の私の大きな、なやみのひとつなのである。(社)大阪自然環境保全協会 主任講師

表紙の写真説明

“ニホンコウノトリ”

(Ciconia ciconia boyciana)

特別天然記念物と特殊鳥類に指定されている大形の鳥です。タンチョウに似ていますがくちばしが太くて長く、樹上に大きな巣を作ります。日本での野生種は1971年に捕獲された1羽が最後になります。(撮影：吉本 昌俊)

なきごえ 5月号もくじ

動物と私 ..... 2
エミューの赤ちゃん ..... 3
動物園での思い出 ..... 4-5
厳冬の黒部峡谷に動物のくらしを探る ..... 6-7
動物園クラブ・動物園日記 ..... 8-9
キーパーズ・アイ ..... 10
動物園ニュース ..... 11



“エミューの赤ちゃん誕生”

2月10日、ふ卵器に入れていたエミューの卵がふ化しました。

しっかり食べて元気に育つようニワトリのヒナを友達に、食事の勉強中です。

(撮影：赤松 建)

伊東重朗

天王寺動物園の飼育課長を拝命しましたのが昭和58年6月15日で、その年には次から次へと大形動物が出産しました。クロサイ、カバ、キリン、フタコブラクダ、シマウマ、トラ等当園の歴史の中でもめづらしいことでした。

また、海外からはオーストラリア・メルボルン市のビクトリア製造業会議所と大阪商工会議所の姉妹会議所の縁組を記念してハリモグラが寄贈され、また在阪の有名織物会社の仲介によりタスマニア州のローンセストン市からサクソンエクストラ・フライン・メリーノ種という最高品種のヒツジが寄贈されました。上海市との第5次動物交流ではコウノトリとフランワルトンが来園しました。このように頻繁な動物交流をみるにつれ、動物園はなんとも忙がしいところだなあと思ったのが実感でした。

昭和59年には、東京、名古屋、鹿児島動物園にコアラが来園し全国がコアラフィーバーの年でした。当園でもコアラ誘致を進めてはいましたが、なぜ大阪にもコアラが来ないのかと市民や報道関係者からよく聞かれたものです。そのたびにもう少しお待ち下さい近々大阪にもやって来ますからとお答えしたものです。

先発3園がコアラ誘致を先がけたその年の10月26日にコアラと同じ有袋類で日本初渡来のタスマニアデビルがタスマニア州政府から贈られて来ました。頑丈なジュラルミンの檻に入れられたタスマニアデビルの姿を見た時の感激はいまでも忘れることができません。一般公開の日にはたくさんの子供達がやって来ました。子供達の第一声が、可愛い、クマの仔みたい、ヌイグルミのようだ、耳がすけて赤く見えるよ、コアラより可愛いね等々うれしくなるような反応がありました。ある記者が私の耳元で、コアラ、コアラと騒がれているがタスマニアデビルがかわいそうだよ、子供がいうように可愛いですね。走り方が気に入ったと、新聞、テレビ等で大きく報道してくれたことがありました。

昭和60年には開園70周年を記念して、当園にしか飼育していないキーウイを目玉にしてニュージーランド・フエアが開催されたり、昭和62年には、「いのちいき」のテーマのもとに現代に生きる私達がとすれば失いがちな自然や生物への暖かいまなざしとゆとりや潤いを取り戻す心の糧となることを願って、天王寺博覧会が開催されたり、平成元年には市政100周年を記念して姉妹都市のメルボルン市から



コアラ館オープニングセレモニー'89

念願のコアラが寄贈されました。一般公開の日には園内が非常に賑わい、コアラの愛称を募集したところ応募総数は8428通も寄せられました。またその年、大阪

市とレーングラード市との姉妹都市提携10周年を記念して日本に初めてのカラフトフクロウも入園しました。

平成2年2月24日には天王寺動物園と天王寺公園が一体となり天王寺動植物公園として新しくスタートし、広く市民の皆様にご覧いただくことになりました。夏が近づいて日も長くなり天王寺公園で夕涼みをしていただくため開園時間を延長し、9時までの夜間開園としました。

また、国際花と緑の博覧会開催期間中には海外から多くの人達が来園され友好親善に一役買ったことは私にとってなによりも大きな思い出になっています。次に新設動物舎の建設の思い出を書いてみようと思います。

当園では新しく動物舎を建設する場合、あらゆる職種の職員の中から委員を選び動物舎の建設プロジェクトチームを組織します。動物の立場、管理する立場、入園者の立場を配慮し、構想段階から工事完成まで協議しながら進めることになっています。飼育課長を拝命した年にキジ舎の建設工事がはじまりました。動物舎の建設についての知識もなくプロジェクトチームの一員に選ばれ、検討会議に出席し、いろいろなことを教えられました。

キジ類は色彩的にも美しく子供達の写生の対象になることが多いので、目線の邪魔になる人除柵を低くすること。従来の菱形金網ではキジが見にくいいため、ステンレス網を使用し材質も細く網目も大きくすること。樹木を植栽し自然石や水飲み場、止り木などを配置し自然の雰囲気をつくりだすこと。防対策として床面にガラス碎片を敷きつめること等、見る、聞く、目新しいことばかりでキジ舎が必らずと簡単に考えていたが、如何に気配りが必要であるか痛感しました。完成後のキジ舎は環境がよくなったのか、以前繁殖しなかったキジ類がドンドン繁殖いたしました。これもプロジェクトチームで何回も検討した成果だと思っています。次に園内を東西に貫ぬく一般道路のオーバーデッキ下を利用して夜行性動物舎が建設されることになりました。人工的に昼夜を逆転させ開園時間中に夜行性動物の活動を見ていただくため、照度、温度、通風、換気に配慮するとともに景観をも考え植栽擬岩にも工夫をこらしました。ここには当園のシンボルであるキーウイを展示するため防音対策には特に配慮した思い出があります。次に昭和62年に天王寺博覧会の開催にあわせて南園の日本庭園の跡地にバードケージ(鳥の楽園)が建設されることになりました。国際的にも評価されるような立派な施設にするため、これも建設プロジェクトチームを組織し国内外のバードケージの資料を取りよせるなどして通り抜け形式のバードケージが完成しました。展示する鳥については、以前からたくさん鳥を展示し入園者から人気のあった水禽放養舎内のシュバシコウなど184羽の鳥を捕獲し、新設バードケージに移動することになりました。全ての鳥を無事移動させるためには捕獲移動の技術研修会が必要であると考え飼育課全員で検討会議を開きました。鳥を実際に捕獲する捕獲班。捕獲した鳥の種類、羽数、性別、脚帯番号

をチェックしたり負傷した際の手当を行う記録治療班。捕獲班より渡された鳥を運搬する輸送班。輸送班より引き渡された鳥をバードケージに放鳥する受入放鳥班の業務分担が決められました。この水禽放養舎は高さ13m 総面積742㎡もあり、高所作業もともなうため安全対策には特に注意しなければなりません。当日は各班が一致団結し、無事移動が完了した時はホットいたしました。今もその鳥達が元



飼育技術研修として行ったバードケージの鳥の移動作業

気をよくバードケージ内を飛び廻っている姿を見るにつれ当時のことが思い出されます。在職中に新設された他の動物舎についてもいろいろな思い出がありますが、次に非常警報設置動物舎についてふれてみたいと思います。危険動物を収容している動物舎の施設内設備の現状を職員全員が知っておかなければ、いざ猛獣が脱出した場合その対応が出来ないのではないかと安全衛生委員会で取上げられ私も同感と思ったので危険動物収容動物舎の柵子の作成を手がけたことがありました。北園のトラ、ライオン、オオカミ、サイ、チンパンジー、オランウータン、ゴリラ、爬虫類、ヒョウ、南園のゾウ、サル、ヒヒ、クマ、ホッキョクグマ舎等々、昔の平面図をたよりに細部にわたってシャッター、カンヌキ等チェックポイントを図面に記入した思い出があります。一番苦労したのがチンパンジー、オランウータン舎でありました。利口な動物なので脱出の危険性も高く、安全対策面には細心の注意が必要で、何回も動物舎の裏方を巡り、飼育担当者から現状をつぶさに聞きました。引き戸、開き戸37ヶ所。二重扉5ヶ所。シャッター15ヶ所。カウンターウエイト5ヶ所。安全ピン10ヶ所。引棒10ヶ所。警報器1ヶ所等、多数のチェック箇所があり動物舎の中で図面作成に特に時間を要した施設でありました。出来あがった各動物舎の平面図を柵子にして、職員全員に配布し、後に日を設定し現場研修を実施したのがついこの間に思われます。また当園では過去9回にわたり猛獣脱出捕獲訓練を実施しておりますが、回を重ねることにより、実戦向きの対応に役立つものと考えています。職員一人一人が事故発生時に自分にはなにをすべきか、仕事の役割分担を忘れないためにも必要な訓練だと思っています。

次にコアラ受けとりのためオーストラリアに出張した時の思い出を記してみたいと思います。ブリスベンにあるローンバインコアラ保護区やシドニーのタロング動物園を視察し、大阪市と姉妹都市のメルボルン市並びにメルボルン動物園を友好訪問したのち、いよいよ明日は3頭のコアラとともに帰国という日になって、メルボルン空港の地上運送部門のストライキに遭遇し、このため大阪でのコアラ受け入れ準備が全て狂

ってしまったのではと心配したのですが1日だけのストライキで解決した時はホットいたしました。

コアラ第2陣の受取りにメルボルン出張メルボルンZOOのスタッフと記念写真

今回はコアラ輸送に30時間も要したことから今回はコアラのことを考え、できるだけ短時間で大阪に輸送する方法として、在来の旅客便を使わずメルボルン大阪直行の貨物便を使用することになりました。フェデラルエクスプレス航空(貨物専用)のジャンボ機の先端部分にコアラを積み込むことになっていましたが、230頭の牛がすでに積み込まれておりスペースがなく、このため牛の積替作業を要求し、その作業に時間がかかりすぎたため出発時間もいづらかおくれました。離陸したのは午後10時を過ぎていました。しばらくして機長室に出来ないかと誘われ、生まれて初めて機長室に入れて



貨物専用機に牛と混載される第2陣のコアラ

た。パイロットからあれが南十字星だと星座の説明をうけていた時エンジントラブルが発生しました。機長があわてて上部にある計器類を操作しだし、言葉も早口になりました。コアラと同行して来たメルボルン動物園のキーパーのレズ・ビーチ氏が大きな目をむき覚えたての日本語で「ドキドキ」と胸に手をやって話しかけてきました。その時のヒゲ面の顔が今でも忘れることができません。翌朝無事大阪空港に着陸した時はホットしたものです。一般の乗客が乗ることが出来ない貨物便での体験は今になっては楽しい思い出の一つとなっています。

終りに、大阪市では、花の万博の理念を今後のまちづくりに継承し、花と緑の美しい魅力あふれる国際都市を築いていくことになっております。この4月29日から5月12日の間、天王寺公園では、花の万博メモリアル・イベントが開催されます。

これからも天王寺動植物公園が子供から老人にいたるまで、幅広くご利用いただき、市民の憩いの場として今後ますます発展していくことを祈る次第です。

最後にお世話になった皆様にお礼を申しあげるとともに天王寺動植物公園の益々の発展と皆様方の健康をお祈りして筆を納めます。

(前大阪市天王寺動植物公園事務所長)

## 山本茂行

数分おきに轟音が天と地に響く。入山を拒絶するかのような大地の声。「あわ」（表層雪崩）だ。空気を巻きこみつつ一挙に数100mを落下するあわは、恐るべき破壊力をうむ。かつて阿曾原で発生したあわは、対岸の高台にあったダム建設飯場を数100m吹き飛ばし、ひと山越えた岩盤にたたきつけた。そうしたあわの犠牲者は今までに数知れない…。

厳冬の黒部は雪崩の巣である。本来ならば、人が入れるところではない魔の秘境なのである。

しかし、その谷でくらす動物たちがいる。そして、多少の危険はあるにせよ、動物たちを観察する方法があるという。

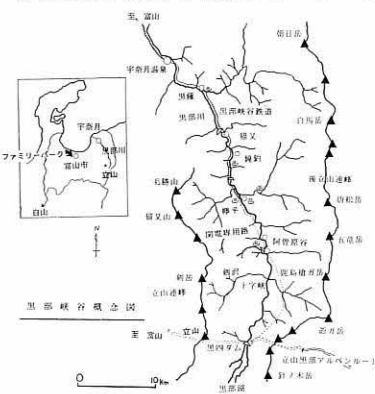
そうと知ったら、どうして黙っていられよう。4年前、わたしの黒部通いはこうして始まった。

### § 何をみる？

いま、人と動物の生活圏の接点で、カモシカがサルが、そしてクマが有害鳥獣として駆除されている。たしかに、いままで確認されなかった場所に彼らが出現するようになった。このことをさして、「山の動物たちが増えた」ととる人も多い。

はたしてそうだろうか。山の環境は多様だ。里山で起きている現象は、深山でも起きているのだろうか。

そんな疑問を抱えていたころ、ふとしたことから黒部の話がでた。さっそく地図を拡げてみた。



黒部峡谷概念図

ふもとの宇奈月温泉から黒部川の上流約50kmのところには黒四ダムがある。その間は大きな支流のないV字峡だ。動物に影響を与えることなく、対岸から連続した観察ができる場所だ。ここは里山から深山までの、つながった観察が可能な、またとないフィールドなどである。

でも、魔の谷…。ところがどっこい、命とひきかえじゃなく調査する手があるらしい。

### § その方法は？

春から秋、黒部峡谷はたくさんの行楽客で賑わう。宇奈月温泉から約20km上流の樺平まで峡谷探勝の鉄道が走っているのだ。しかし晩秋になると架線やレール、場所によっては鉄橋もなだれ被害防止のためにはずされる。そして人の気配が消えうせる冬を迎える。立山黒部アルペンルートから行く黒四ダムも冬は人を寄せつけない別世界だ。

それでも厳冬の黒部でくらす人がいる。ダムや発電所の人たちだ。そのため、最小限度の交通手段は

確保されている。「冬期歩道」がそれだ。峡谷鉄道にそって岩盤内に人が一人通れるくらいのトンネルがある。あわから命を守るためのものだ。この冬期歩道を使えば、宇奈月から連続した観察地点の設定と移動が可能となる。

さっそく手を尽くしてみた。その結果、富山県教育委員会、関西電力、黒部峡谷鉄道の好意でルートは確保できた。あとは実行あるのみ。

### § 調査開始—現在進行形

カモシカの観察を中心にすすめることにした。理由は簡単。サルは観察している人がすでにいる。クマは冬ごもり中だ。それからここがミンだが、なんとなくわたしはカモシカが好きなのだ。

調査をするには、地形と危険箇所を頭にたたきこまねばならない。観察するポイント探しはそれからだ。まずは山岳ガイド・高島石盛氏と数回入山。彼は黒部を庭のように知りぬいている男だ。遭難があれば出動する救助隊の精鋭でもある。みっちり、彼に冬の黒部を覚えてもらう。

予備調査の結果、宇奈月温泉から黒四ダムまでの左岸を主体に、定点観察地を4箇所、ロードセンサー地点を33箇所設定した。可能なかぎり観察地は連続させた。定点では個体を識別し行動観察を、ロードでは生息数の確認を毎年行なうことにした。調査は日帰り〜4泊など、そのときによるが、一冬最低10日間は入山するようにした。

こうして4年間たった。入山日数は50日を越えた。しかし暖冬の年が続いたせいもあり、まだまだ調査の必要がある。いまはわからないことだらけだ。ただ、宇奈月温泉近く（人との接点の里山）ではカモシカの密度は高いが、上流へいくとそうではない感触をえた。皮肉なことに、下流の北アルプスカモシカ保護区の境界あたりが密度の高い地域のである。

これらについては別の機会に譲ることにして、今回は、垣間見た秘境黒部の一端を紹介しよう。

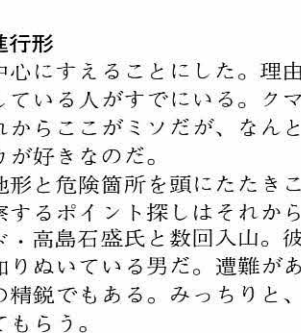
### § カモシカと雪崩

雪崩の巣でカモシカはくらししている。だが彼らには雪崩予知能力はないようだ。毎年、たくさんの個体が雪崩の犠牲にな



厳冬の黒部峡谷

確保されている。「冬期歩道」がそれだ。峡谷鉄道にそって岩盤内に人が一人通れるくらいのトンネルがある。あわから命を守るためのものだ。この冬期歩道を使えば、宇奈月から連続した観察地点の設定と移動が可能となる。



冬の唯一の通路「冬期歩道」



雪崩危険地帯（左側）を行くカモシカ親子

っている。悪いことに、雪崩の発生しやすい場所が彼らの餌場であり、休息地でもある。雪崩あと地は見通しがよいし、彼らの好む灌木がはえやすいせいだ。

大雪警報のでた91年2月24日。定点のだし平で個体識別済みの2歳のカモシカの行動を追っていると、きだった。採食中のカモシカの頭上200mで雪崩が発生。カモシカは口を止め、一瞬谷を見上げた。しかし逃げる余裕もなく、数秒後には雪煙に消えた。2時間たっても、生存の気配を感じさせてはくれなかった。常に死の危険を背負って生きる彼らの生活ぶりを見せつけられた思いがした。

### § 昼飛ぶコウモリ

冬、しかも昼の日なかにコウモリが飛ぶとは思わなかった。冬期歩道は岩盤をくりぬいただけのトンネルが多い。中には、地熱の関係で湿度が高く、暖かいトンネルもある。そこではキクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ウサギコウモリ、テングコウモリを見ることができると、ときどき坑内を飛翔するのを見るが、たいがいは天井に張りついている（といっても目の高さだが）。

89年3月3日午前11時ごろ、軌道上を1頭のカキガシラコウモリがひらりと飛び回り、虫を捕食しているのを見た。30分間の出来事だった。この冬は記録的な暖かさで、3月だというのに融雪した地肌に陽炎がたち、ユスリカやハルカなどの活動が活発だった。例年なら3mを越す残雪が地表を覆っているところだ。コウモリも変化の少ない坑道内にいながら、いち早い春を感じとり、夢のような1日を送ったのだろう。

### § ちゃっかり利用

このように秘境黒部といえども、動物たちは人の造った施設を有効に活用している。雪のないトンネルは動物たちにとっても歩きやすい。よく利用しているのはテン、キツネだ。ノウサギは遠慮気味。冬越しに使うのはコウモリの他にはカマドウマ。ヒキガエルも見かけたことがある。

### § 重い高熱隧道（ずいどう）

阿曾原と仙人谷の間に高熱隧道がある。第二次大戦前に、ダム工事のために造られたものだ。その名の通り、摂氏120℃もの湯脈の中を貫通させた難工事だ。軍国主義下の電源開発のため、百数十人の犠牲者をおして強行されたものである。

真っ暗な坑内を照らすと、異様な熱気と噴出音の中に硫化物で覆われた岩盤が浮かぶ。さながら「地獄図」を見るようである。ヘッドランプで照らされ、素彫りの岩盤で踊る影は、当時、虫けらのように軽んじられ、犠牲となった工事人夫たちの怨念のようだった。

温度計で計測してみた。さすがにいまでは、坑内

気温35℃、地温39℃（外気温2℃）までに下がっていた。しかし、むせかえる暑さである。冬山装備を脱ぎ、裸でザックをしょって歩いた。そのうち、素肌に食い込むザックの重さが、ここを掘るために、ここで死んでいった人たちの、命の重さと重なってきた。いま、ここを歩く自分は何なんだ、とわたしは自分に問い続けていた。

### § 氷筍（ひょうじゅん）オンザロック

黒部にあるのは悲壮な話だけではない。自然はすごい造形作家だ。氷筍もそのひとつ。氷筍とは天井からたれる水滴が地上で凍り、それが積み重なって筍（たけのこ）のように成長した氷のオブジェだ。大きいものだと3m近くある。これは見ても飽きない。しかし、もっと楽しいのは、手ごろな氷筍を失敬して作るオンザロック。かたいかたい氷が溶けると、同心円上に虹が浮かんでくるのもおもしろい。定点でじっとカモシカを観察していると寒さがこたえる。そういうとき、絶好の友がウィスキー。それはもちろん、氷筍入りのオンザロック



地上に落ちた水滴が凍ってできる氷筍（信濃毎日新聞社提供）

§ 温泉天国  
もうひとつの楽しみは各所にある温泉である。ふもとの宇奈月をはじめ、黒灘、鐘釣、仙人谷など。仙人谷では宿舎に温泉がある。疲れて冷え切った体に温泉ほどありがたいものはない。湯に浸ると、これを目当てに入山しているものではないかと思うほどだ。鐘釣は河原そのものが温泉。砂を掘って、適当に清流とまぜ、自分の風呂を作る。そこで飲むビールはこの世のものではない。もっとも、鐘釣や黒灘の露天風呂は、残念ながら例年だと雪崩の下。しかし、暖冬の89、90年は鐘釣の河原に降りたつことができた。こんな年はめったにない。さっそく裸になり、誰もいない晩冬の峡谷を愛（め）でながら、半日、湯と酒に浸ったのはいうまでもない。

### § 変貌する秘境

気になることもある。冬期歩道も安全のため、岩盤のコンクリート化、照明設備などが年々整備されていく。となると、コウモリたちもだんだん住宅難になっていくだろう。新たなダム建設も行なわれている。もうしばらくすると、秘境黒部は連続したダム湖に変貌しそうだ。対岸を歩き来してくらすカモシカやサル、クマなどにも、その影響ははたそうだ…。

そうならないためにも、わたしに様々な姿を見せてくれた黒部の自然を、もっと見続けていくべきだろう。そして何ができるかつきつめていこうと思っている。

（富山市ファミリーパーク飼育展示係長）

# 動物園グラフ

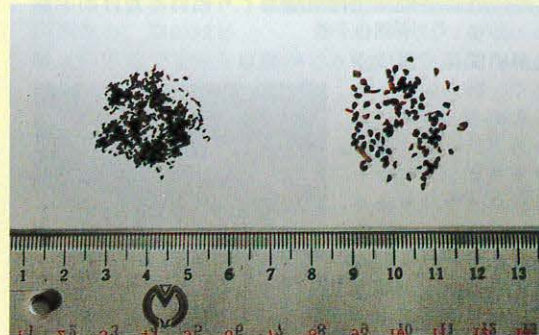
## “コアラのエサ”

コアラのエサになるユーカリを園内でも栽培しています。今回はユーカリの木を種子からエサとして刈取れるまでをご紹介します。

(撮影：野口 秀高)



播種後1ヶ月目 2~3cmに成長した発芽苗



ユーカリは650種ほどの種類があり、日米豪のコアラ飼育園で約48種のユーカリが利用されています。種子はちりのように細かいものから大きいものまで様々。左・ビミナリス右・オブリカ



発芽苗を小さなポットに1本ずつ移植します。



移植後5ヶ月で30~40cmに成長したビミナリスの苗、これらを露地に定植します。

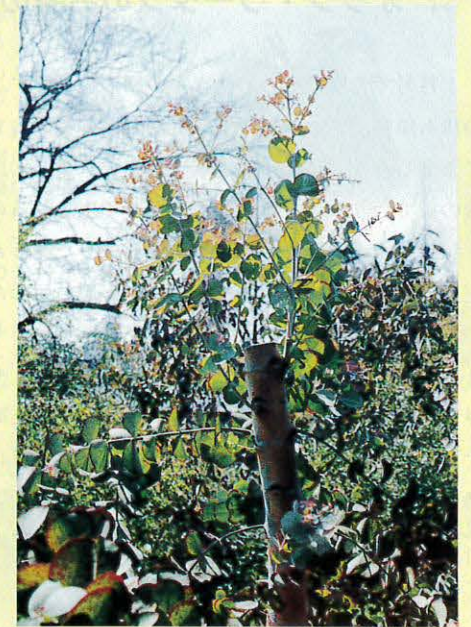
## 2・3月の動物園日記

- 2 / 25. ワライカワセミが今季、はじめて産卵しました。
- 2 / 28. ヤギの双子(雄、雌)が生まれました。
- 3 / 2. 爬虫類舎のワニガメの性別鑑定をしました。
- 3 / 4. ホッキョクグマの赤ちゃんの検便をしました。
- 3 / 6. キジ舎の鳥全羽にワクチンを接種しました。
- 3 / 7. ホシハジロを1羽保護しました。  
宮崎市のフェニックス自然動物園の副園長が来園見学されました。
- 3 / 9. ヒツジの赤ちゃん(雌)が生まれました。  
トビを1羽保護しました。

- 3 / 10. 東京都恩賜上野動物園の飼育課長ほか2名が来園見学されました。
- 3 / 11. ホオカザリヅル雌1羽を千葉市動物公園に貸し出しました。
- 3 / 12. 猛獣脱出捕獲訓練を行いました。
- 3 / 13. 日本モンキーセンターで行われた第35回プリマーテス研究会で当園の獣医師が講演しました。  
北里大学獣医学科の学生1名が実習を始めました。
- 3 / 15. 福岡市動植物園の動物園長が来園見学されました。
- 3 / 16. 農水省畜産試験場遺伝子機能研究所長が来



定植後1年半位で大きいものでは4m以上に成長します。幹の直径も10cm近くにもなります。そろそろ刈取れるようになります。



エサとして多くの枝が収穫出来るように早春に1.5m位の高さで幹をカットし桑木仕立てにします。



出荷地より搬入されたユーカリの枝は1.5mに切りそろえ、保冷庫で十分水揚げをします。



新鮮で香りの良い、やわらかい葉、芽、枝を好んで食べます。1日にたった400~600g位しか食べません。

- 園見学されました。
- 3 / 17. 第71回動物とスライドの会「サルのお話」を開催しました。  
3/13保護したコサギなどの野鳥を自然復帰させました。
- 3 / 18. 本日より3/24まで園内で動物慰霊祭が行われました。
- 3 / 19. ホッキョクグマ母子の一般公開を始めました。  
チンパンジー雌2頭を愛媛県立とべ動物園に貸し出しました。
- 3 / 20. ヤマネコ舎のハクビシンが交尾しました。
- 3 / 21. イワトビペンギンが交尾しました。
- 3 / 22. 猛禽舎のカラカラが産卵しました。

- 3 / 23. 名古屋市東山動物園の獣医師ほか1名が来園見学されました。
- 3 / 25. 鳥の楽園でカワウが今季最初の卵を産みました。
- 3 / 27. 東京都多摩動物公園からチンパンジー雌1頭を借り受けました。
- 3 / 28. ダチョウが今季最初の卵を産みました。  
東京都多摩動物公園と富士自然動物園からアムールトラを各1頭借り受けました。
- 3 / 30. 昨年生まれたタンチョウの雛をコウノトリ舎の隣からツル舎に移動しました。
- 3 / 31. 本日を以て、当園の伊東所長が定年退職されました。

☆ オラン・ウータンのお腹の中味・その後

1月号でお知らせしたサツキの話の続きです。その後も順調で、お腹も下がり乳房もはり乳頭も立ってきましたが、予定日を過ぎて生まれません。寝台の上で力きみ始めると、もう少しで生まれるのかと毎日モニターに神経を集中していました。しかし、正月が過ぎ少し遅れすぎではないかと思いついたのですが、本人は未だ力きんだりガンバっています。そして乳頭から乳汁が出るようになりました。サツキも私達も、すぐに産まれるものと思っていたのですが、日は流れるばかりです。そして1月31日に麻酔を打ち精密検査をすると、お腹の中には何も入っていません。もちろん“ウンコ”だってありません。

私達のショックは大変なものでしたが、それ以上にサツキの方がもっとショックは大きかったと思います。診断の結果は、疑妊娠（俗にいう想像妊娠）。サツキの子供が欲しいと願う想いがお腹いっぱいにたまっただけでしょうか。母性愛それとも子孫を残そうとする本能的なもの？それよりもサツキは元の状態に戻るのだろうか？疑問だらけの中で記録していたビデオ・資料の整理に追われる毎日です。

その後の経過は順調で3月には生理もあり、通常の状態に戻ったようでひと安心。でも次の機会には是非“想い”ではなく“子供”でお腹を大きくして欲しいと思います。（飼育課：原田 勉）

☆ 次から次へと……

私が飼育係になって早くも2年以上の月日が流れていきました。（サル舎とサル島担当です。）ようやく仕事にも慣れ、サルたちのことを考え、勉強しながらガンバっている毎日です。そんなある日、「お客さんにサルの話しをしてくれ。」という話がありました。毎日の仕事の話ですればいいというので気楽にひき受けたのですが、その日が近づくにつれ、「何を話したらええんやろ？」などと考えたり、スライド用の写真を撮ったりしてうちに、えらい事をひき受けてしまつた事の重大さにやっと気付いてきました。

当日は日曜日、しかも晴天となり園内はお客さんがいっぱい、会場もいっぱい。それを見たときに足はガタガタ、タバコを持つ手もブルブル。どんな話をしたのやらあまり覚えていない程です。「まあまあやな。」と先輩方に言われても、その日1日は緊張がとけず変な気分でした。

ひとつ仕事を覚えたと思ったら、次から次へと新



しい仕事が出てきます。いったい、いつになったら一人前になれるのでしょうか。

P. S. 動物園のおじさんの話は毎月第3日曜日にありますから、動物園に聞きに来て下さい。

（飼育課：岡田 博之）

§ ホッキョクグマ母子の一般公開

3月19日からホッキョクグマの母子の展示一般公開を始めました。子供は昨年11月30日生まれで、当日で生後109日。出産直後は推定500g程しかなかった体重も、この時には推定20kgに成長していました。放飼場ではじめは母親にびったりくっついて離れることがあり

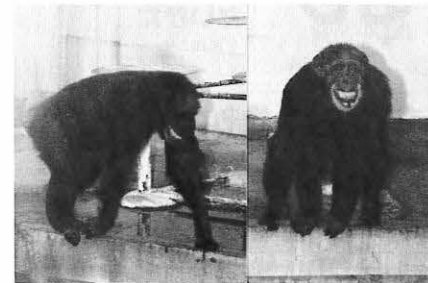


放飼場でじゃれあう母子

ませんでした。プールの水も充分入れ、泳ぎやすくしていますが、顔や前足を入れて水遊びをする程度で、泳ぐまでには至っていません。本誌が発行される5月頃にはもう泳ぎ出しているかも知れません。

§ 繁殖をめざして、チンパンジーの出入園

3月19日にチンパンジーのメス2頭“ヨウコ”(25歳)“サクラ”(17歳)が、愛媛県立とべ動物園に繁殖を目的とした動物の貸借契約（ブリーディングローン）によって貸出されました。



借し出されたチンパンジーのサクラ(左)とヨウコ(右)

チンパンジーは絶滅にひんしている動物としてワシントン条約の附属書第1表にかかげられている種で、とべ動物園には成獣2頭を含む計3頭のオスがあり、今回のメス2頭の導入により繁殖が期待されるものです。

8日後の3月27日には、9歳になるチンパンジーのメス“アップル”を、群れ飼育している多摩動物公園から、ブリーディングローンで借り受けました。当園に残るチンパンジーは、今年8歳になるオス“リッキー”と6歳になるメス“ミナミ”で、間もなく性的にも成熟しますが、将来、群れ飼育を旨とする当園としては、アップルに群れ生活でのルール、マナ

現在の飼育動物数

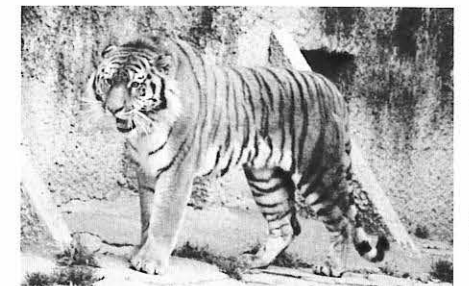
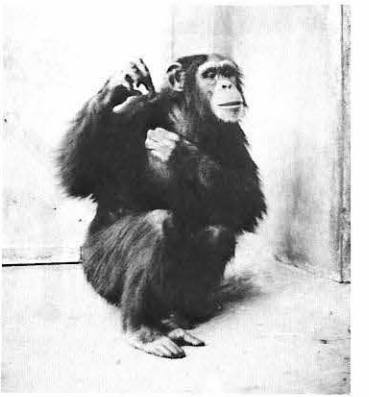
(平成3年3月31日現在)

哺乳類	13目	96種	406点
鳥類	20目	181種	721点
爬虫類	3目	32種	69点
合計	36目	309種	1196点

ーなど学習のお手本になってもらうよう導入を計ったものです。アップルは検査終了後、さっそく展示を行い仲の良い関係を作っています。

§ アムールトラの1ペア来園

3月28日、アムールトラ1ペアをブリーディングローンで借り受けました。現在、野生のトラは数千頭しか生息せず、分布域で区分された8亜種全てが絶滅にひんしています。アムールトラは、シベ



リアや中国東北部に生息する最大のトラで、野生での生息数は推定350頭と言われています。日本動物園水族館協会の種保存委員会では本種を肉食獣の種保存計画第1位優先種に指定し、アムールトラの種別調整者のあっせんによって、当園も本種の増殖と種保存に参画することになったわけです。5月には、広い屋外放飼場で皆様にお目見えしていることでしょう。

● お知らせ

動物のお話とスライドの会  
5月19日(日) キリンのお話  
時間：午後1時～2時  
場所：レクチャールーム

● テレフォンサービス実施中

催し物、トピックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を、24時間テレフォンサービスで行っていますので、ぜひご利用ください。  
電話番号 771-9999

\* 休園日のお知らせ \*

動物園の休園日は毎週月曜日(休日の場合は翌日)です。  
開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時まで入園できます。

愛ある暮らし、応援します。

# Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



## 生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修  
B5変型判・オールカラー  
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、  
自然の中ではどんな暮らしをして  
いるのか？ 動物園での世話  
の仕方は？ 仲間とは？ など、  
写真と精密イラストをまじえ紹  
介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>  
B5変型判・オールカラー・各定価580円

### むしくらしか いかた

野山でみかける身近な昆虫たち  
250種を紹介。

### ちいさないきもの くらしか いかた

昆虫以外の小さな生き物を320  
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

室内装飾設計施工・バラエティ雑貨卸

## 1st ファースト商会

〒559 大阪市住之江区平林南1丁目2番57号  
ヘッドビル202号  
TEL 06-686-4033 FAX 06-686-4032

オートフォーカスカメラに

# フジカラー SUPER HG 400



ピントが合いやすいフィルムです

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
三番街店 ☎372-5031

全国の愛犬家の共感を呼ぶ無比の愛犬歌集

絶賛四版

# 歌集 犬の歌

平岩米吉著

著者が、約四十年の間に、共に暮らした七十余頭の犬の生と死  
を歌った四百十九首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る  
写真四十七図を収めた、犬の一生の生態写真集でもある。

天金・美装箱入  
B6判・270頁  
3000円・〒不要

### 《感動の言葉》

- ☆ この歌は愛犬と異体同心の境地である。（英文学者）
- ☆ 人として注ぎ得る愛情の極致を示している。（動物研究家）
- ☆ 一首ごとに、ことごとく魂にひびく歌です。（動物愛護家）

●本書は、書店ではお買い  
求めになれません。  
直接当会へお申し込みく  
ださい。

〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 動物文学会 電話(03)717-1659/振替・東京5-9800

新作

貸出用「楽しい天王寺動物園」  
ビデオ 19分(10本常備)

## 天王寺動物園の本 入園の記念・手引に……

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキで  
お申込下さい。

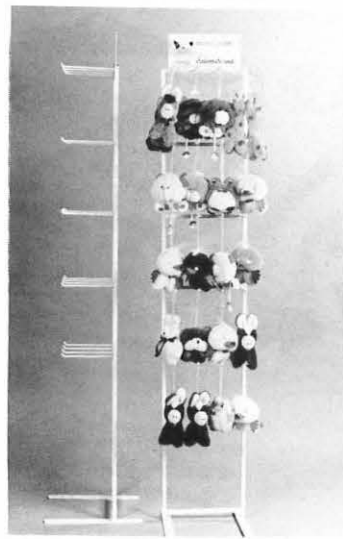


コアラテレホンカード(限定販売)  
好評発売中 ¥800(50度用)

オールカラー  
500円

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

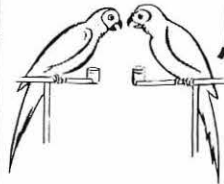


## 動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

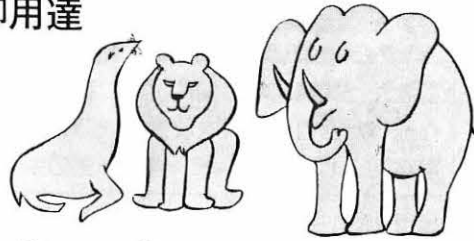
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号  
TEL : (06)704-8580  
FAX : (06)704-8565



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 **吉川商会**

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、  
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数ヶ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

## 動物園内での お食事、ご休憩は

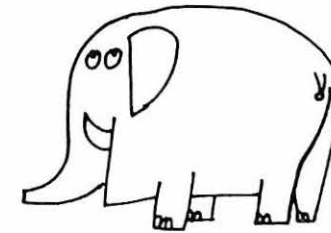
大阪市天王寺動物園内

## 中央売店

☎ (06) 771-0973



## 天王寺動物園内

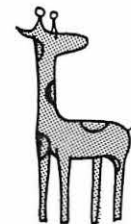


## 南園売店

大阪市天王寺区茶臼山町6-74  
電話 (06) 771-7110番

## 園内でのお写真は…

### 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して  
おりますのでご説明  
に伺いました際は、  
よろしくお願い致し  
ます。

### カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。  
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社  
TEL 06-856-7444





雪印乳業

唯ちゃんも、  
とってもゼリーも、  
ますます成長しました。



浅香 唯

# フルーツゼリー とっともゼリー



一日  
愉快地  
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社  
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1991年5月10日発行(毎月10日発行)第27巻 第5号 (通巻309号)

編集 / 大阪市天王寺動物園事務所

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 橋本一郎

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共) 振替口座 大阪3-37823

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪3-37823

編集委員 (中山良三郎 / 村上 昭 / 中尾啓一 / 樽本 勲 / 中川哲男 / 吉本昌俊 / 山根和弘 / 大谷直樹 / 宮下 実 / 長瀬健二郎 / 神原安昭)  
森本委利 / 竹田正人 / 永田健一 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川 篤 / 赤松 健 / 中垣圭史 / 大川光雄 / 土谷正道 /